

道

2026・8・5

通信

No 1890



チンゲンサイ

本日の練習 6時30分～

フォーラム南太田 音楽ルーム

清水先生・野部奈央子先生

美し春の花よ さくら けし 窓辺に散るチェリヨームハ 永遠の花

次回 8月12日(水) 6時30分～ **栄区民文化センター**

小坂先生 二宮先生

母なるヴォルガを下りて ウチョース ジグリー

横浜市栄区民文化センター リリスホール 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1

JR 京浜東北線(根岸線)本郷台駅より徒歩 3 分。複合施設 地球市民かながわプラザ内にあります

「椰子の実」は国民歌謡として歌われた島崎藤村の詩による歌。

昔、母と一緒に歌った思い出の歌の一つである。

夜間の専門学校に入学をした時に、その学校で再び「椰子の実」の歌に出会ったのである。

音楽の時間に毎回この歌を歌わされた。

何故か？音楽の担当が大中寅二先生だった。作曲家でありリードオルガンの演奏家でもあり、「椰子の実」の作曲者なのである。ご自身が「たくさん作曲したが、一般的にはこれが有名だ！」と言われ、生徒にこの歌を歌わせていたのである。今でも日本の叙情歌の一つになって歌われているのは嬉しい。

授業は偉い先生だと思って期待をしていたのに。「この学校の学生は真面目の上に形容詞がつく。それでは世の中は渡れない！」と一括。話も冗談？ブラックジョーク？音楽の内容はともかく、高校卒業して 1, 2 年の年齢者が多く、それも地方出身者が圧倒的に多い、純情な生徒ばかり！父親より祖父の年齢の先生。奥様とは再婚で元生徒だった！それだけならよいのだが、結構のろけ話も聞かされ、皆で顔を見合わせ、「またこの話！」しかし表面あまり真面目を表さない先生であったが、貧しい生徒のために、時間を割いて希望者には無料でオルガンを教えてくれ、特にクリスマスのために授業時間に「ハレルヤコーラス」をやりたいが、時間がないので「オーホリ ナイト」を歌おうと教えてくれたのである。

今、思いだすと冗談の話も先生独特の照れ隠しであったような気がして「椰子の実」を歌うと眼鏡の奥のギョロ目の先生を思い出す。クラス会ではいつも「椰子の実」を歌い。校歌のような存在の歌になっている。

※大中 寅二(1896 年 6 月 29 日 - 1982 年 4 月 19 日^[1])は、日本の作曲家、オルガニスト。

山内ツヤ子さんより原稿拝受 (2025 年 5 月 3 日)